

2020年度 第3回 学校教育事業委員会 記録

日 時：2021年3月16日（火）
午後6時30分～8時00分
Zoomでのオンライン会議

I. 出席予定者

濱瀬 眞知子（長）、海老 直人（副）、岩本 哲人、岩野 祐介、追原 三重、中出 恵子
（以上委員）

松田 道子（担当理事）

高等学院担当職員 櫻井 英治

専門学校担当職員 田村 光、鐘 瑋悦、古谷 茉穂、坂本 孝司（担当主事）

（以上職員）

I. 欠席者

林 敬子、土肥 伊都子、中畠 孝幸
（以上委員）

I. 聖書朗読

詩編 36 編 10 節 「命の泉はあなたにあり あなたの光に、わたしたちは光を見る」

（2020年神戸YMCA年間聖句）

I. 開会祈祷

坂本氏より開会祈祷がなされた。

I. 議題

1. 神戸YMCA全体報告

松田氏より以下のとおり報告がなされた。

- ・2回目の緊急事態宣言で厳しい状況は変わらない。運営会議は、予算案を3つ提案し、「厳しいが活動はできる」という案で来年度の運営を開始することを理事会に提案した。
- ・専門学校、及び、高等学院の定員充足率を考え、2021年4月より定員変更を行う。
- ・常議員会にて神戸キリスト教青年会所管委員会の再編成、公益財団法人理事会にて所管委員会編成を行っている。とりわけ公益財団法人所管である地域委員会の見直しを予定している。

2. 委員の皆様の近況について

委員の方々より近況の報告がなされた。

（以上、承認）

3. 2020年度各校の状況報告

1) 高等学院

別紙の通り、櫻井氏から高等学院の在 학생徒数、広報、現状について報告があった。

講師授業アンケートに関し、以下のような質問があった。

岩本委員：「学生は授業前の準備をしている」という項目に、専門学校が4.0に対し、高等学院が3.0はなぜか。

中出委員：予習をすることに関する考え方が高等学院生と専門学校生では違うこと、加えて高等学院生の中でも予習に関して考え方の差がある。

濱瀬委員長：高等学院と違って、専門学校の授業は準備してしないとできない授業が多いため、学生は授業前の準備をすると感じた。

岩本委員；生物の授業の免疫部分の授業参加者が少ないことに加え、免疫は授業課程の真ん中になるはずだが、なぜ高等学院は最後なのか。

松田氏；レポート提出で出席と満たす授業のため、補充として最後に免疫の説明をしたかったが、学生がレポート作成で力尽きたため、授業が成立せず、先生が残念だと感じたのではないか。

(以上、承認)

2) 専門学校

ホテル学科の現状について、主任の古谷氏から報告資料を基に報告があった。

日本語学科の現状について、鐘氏から報告資料を基に報告があった。

報告について、以下のような質問があった。

濱瀬委員長：1年生はずっとマスクで素顔が分からない状態だが、他の学校の様子を伺いたい。

追原委員：講義でも同じようにずっとマスクをするが、目だけで表情を表したり、動き回って、話さなくても受講者のそばに立つなどの事で、集中力を落とさない等の工夫をしている。

古谷氏：広い空間での授業の進め方について意見を委員に伺いたい。

岩本委員：40人の教室を30人にして、1年生にタブレットを配布して授業を進んでいる。後ろの学生もスライド使用時に後ろにいる学生にも分かりやすいように、見やすいスライドを作るなどの意見があった。

鐘氏：日本語会話クラスの広報について意見を伺いたい。

濱瀬委員長：オーストラリアでは高校で日本語学科を持つ学校が多く、親日家も多いので、オーストラリアと繋げるのがといいという意見があった。

(以上、承認)

4. 学校評価（自己点検）について

田村氏より委員の方々へ、資料確認とご意見、ご提案の依頼がなされた。

追記・変更等があれば、3月中に神戸YMCA 担当者に連絡をいただくことが確認された。

5. 閉会祈祷（坂本氏）

I. 閉会

以上

(記録：櫻井・鐘)